

プラネタリーヘルス

カーボンニュートラル

ネイチャーポジティブ

炭素循環

プラネタリーバウンダリー

生物多様性

パンダミックス

PHI山陰

循環型農業

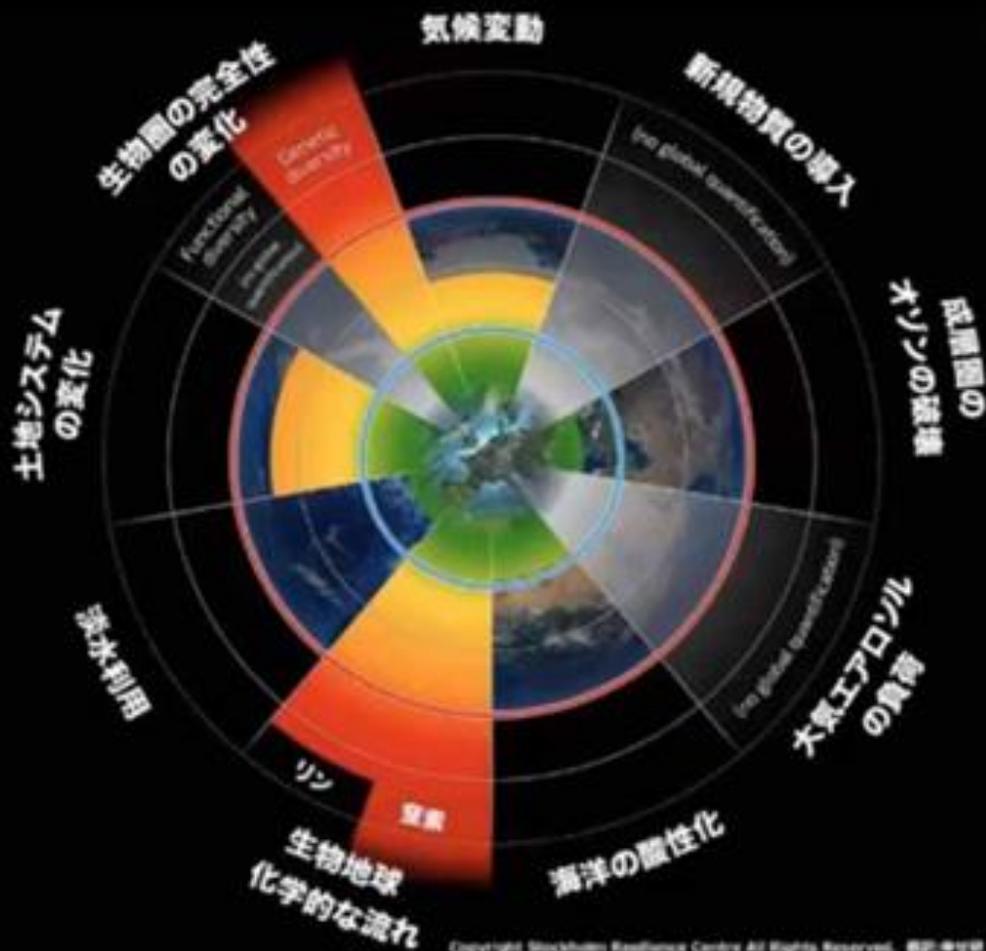
プラネタリーヘルスダイエット

プラネタリーヘルスツーリズム

プラネタリーヘルス (Planetary Health)	人間と地球の健康のバランス
カーボンニュートラル (Carbon Neutrality)	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、 その排出量を「実質ゼロ」に抑える
ネイチャーポジティブ (Nature Positive)	自然生態系の損失を食い止め、回復させていく
パンダミック (Pandemic)	症状の全国的・世界的な大流行
炭素循環 (carbon cycle)	地球上の生物圏、岩石圏、水圏、大気圏の間で 炭素が交換される生物地球化学的な循環
プラネタリーバウンダリー (Planetary boundaries)	人類が生存できる安全な活動領域とその限界点
生物多様性 (biodiversity)	生物に関する多様性を示す
循環型農業 (Circular Agriculture)	農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、 土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による 環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業
プラネタリーヘルスダイエット (Planetaryhealth Diet)	地球にやさしい食生活
プラネタリーヘルスツーリズム (Planetaryhealth Tourism)	<u>プラネタリーヘルスツーリズムは、環境の再生活動を通じて、 自身の心身の健康・ウェルビーイングと地域、 自然環境の健康を実現することを目指しています¹²。</u>

プラネタリーバウンダリー（地球限界）

地球の「健康状態」？



小さな地球の大きな世界

プラネタリーバウンダリーと
持続可能な開発

J. ロックストローム M. クラム 著
武内和彦 石井菜穂子 監訳
宮野島 義典 監訳



Abundance within Planetary Boundaries
Johan Rockström, Maffeo Ciummo

丸善出版

SDGsの17目標にはプラネタリーバウンダリーの9限界値のうち四つが入っていて土台になっている





令和4年3月
環境省、農林水産省
経済産業省、国土交通省

ネイチャーポジティブ経済移行戦略～自然資本に立脚した企業価値の創造～

ネイチャーポジティブ経済への移行の必要性 ～社会経済途絶リスクからの脱却～

経済活動の自然資本への依存とその損失は、**社会経済の持続可能性上の明確なリスク**

社会経済活動を持続可能とするため**ネイチャーポジティブ経営への移行が必要。**

= 自然資本の保全の概念をマテリアリティとして位置づけた経営

CSR的取組から一段踏み込み、自然資本への依存・影響の低減を本業に組み込む

不適切な水資源利用や化学物質の放出等の結果、株価の下落等の財務的損失を被った企業も生じている
出所：When the Bee Stings (BloombergNEF2023)



本戦略の狙い ～単なるコストアップではなくオポチュニティでもあることを示す～

ネイチャーポジティブ経済：個々の企業がネイチャーポジティブ経営に移行し、バリューチェーンにおける負荷の最小化と製品・サービスを通じた自然への貢献の最大化が図られ、そうした企業の取組を消費者や市場等が評価する社会へと変化することを通じ、**自然への配慮や評価が組み込まれる**とともに、行政や市民も含めた多様な主体による取組があいまって、**資金の流れの変革等**がなされた経済。

本戦略では①**企業の価値創造プロセスとビジネス機会の具体例**

②**ネイチャーポジティブ経営への移行に当たり企業が押えるべき要素**

③**国の施策によるバックアップ**

を示し、**個々の企業の行動変容を可能とし、その総体としてのネイチャーポジティブ経済への移行を実現。**

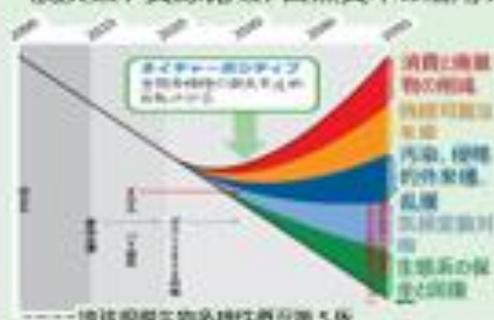
① 企業の価値創造プロセスとビジネス機会の具体例

TNFD等の情報開示を通じた企業価値向上

情報開示を意識したリスク対応等（それによるレジリエンス・持続可能性向上）で、それが市場や社会に評価されることで民の資金を呼び込み、企業価値向上に結びつける。

ビジネス機会の具体例と市場規模（環境省推計）

脱炭素や資源循環、自然資本の活用等、様々な切り口から機会創出。



〔ビジネス機会の具体例〕
配合飼料への転換や効率的な給餌等の環境配慮型養殖技術
(市場規模: 年約864億円)



環境省「生物多様性国別戦略」5頁

② ネイチャーポジティブ経営への移行に当たって企業が押えるべき要素

まずは足元の負荷の低減を

自然資本への負荷の削減・低減を検討した上で、自然資本にポジティブな影響を与える取組を検討（エティケータシオン・ヒエラルキー）

総体的な負荷削減に向けた一歩ずつの取組も奨励

総体的な把握・削減を目指す。同時に自然資本との関係を踏まえつつ、事業の一部から着手することも奨励

損失のスピードダウンの取組にも価値

負荷の最小化と貢献の最大化を同時に図ることで、自然資本の回復力も含めたネイチャーポジティブを実現

消費者ニーズの創出・充足

消費者ニーズを適切に把握するとともに創出し、ネイチャーポジティブに資する製品・サービスを市場に提供

地域価値の向上にも貢献

ネイチャーポジティブ経営が地域の生物多様性保全と地域課題の解決に寄与

セクター別の取組内容・取組事例等については、「生物多様性民間参画ガイドライン（第3版）」（2023.4公表）参照。

ネイチャーポジティブ経済移行戦略～自然資本に立脚した企業価値の創造～



令和4年1月
環境省、農林水産省
経済産業省、国土交通省

移行後の給姿（2030年）～自然資本に立脚した、GDPを超えた豊かな社会の礎に～

大企業の5割※はネイチャーポジティブ経営に

※取締役会や経営会議で生物多様性に関する報告や決定がある企業会員の割合（環境省推計）。現状30%（2022年度、経団連アンケート調査より）。

ネイチャーポジティブ宣言※の団体数を1,000団体に

※2030生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF、会長：十倉経団連会長）が呼びかけ中。現状28団体、中小企業、自治体、NGO団体含め宣言が発出されることで、取組機運の維持、市場確保に繋がる。

・③国の施策によるバックアップ（ネイチャーポジティブ経営への移行に伴う 企業の価値創造プロセスと対応する国の施策）

価値創造プロセスの各ステップを関係省庁連携で支援

※各種施策のうち環境関連に特化し、かつ比較的多くの業種・分野に共通するものを例示。

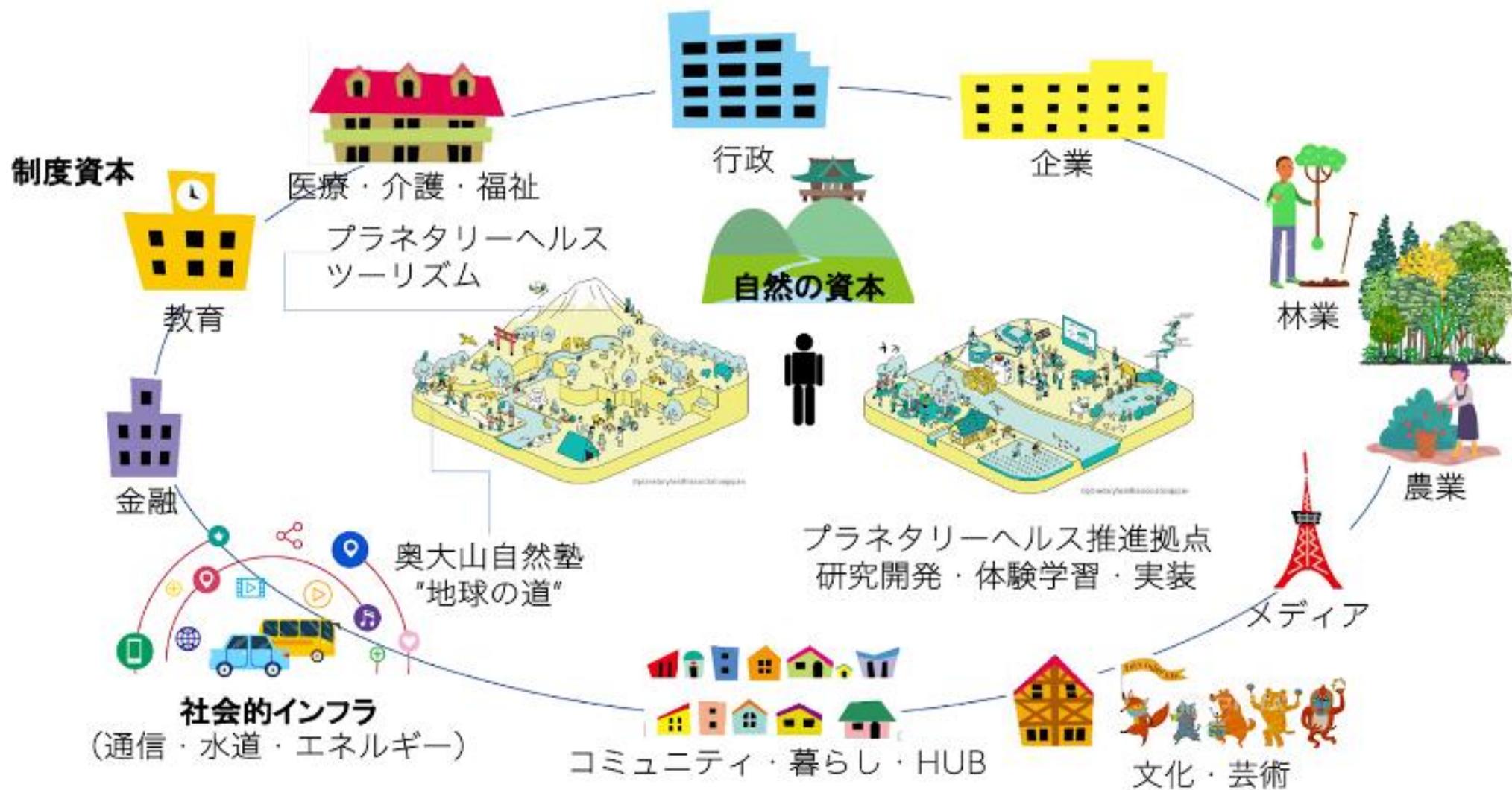


プロセスを支える基盤

DXの進展/科学的知見の充実/国際社会における適切な評価/消費者を含む取組機運醸成・維持

- ・企業のリスク特定、情報開示等に必要な自然関連の国際データに係るネットワークを形成しつつ、日本を含むアジアモンスーン地域からの国際ルール形成に貢献
- ・国土の自然関連情報等のデータ基盤整備
- ・地域の自然資本や生態系サービスを定量化し、地方創生や地域課題解決へ活用する方策の検討
- ・リモートセンシングやAI技術等を用いたデータ利活用ビジネスの推進
- ・互助・協業プラットフォームの創設、産官学民プラットフォームの運営

プラネタリーヘルス推進連携イメージ“鳥取江府モデル”

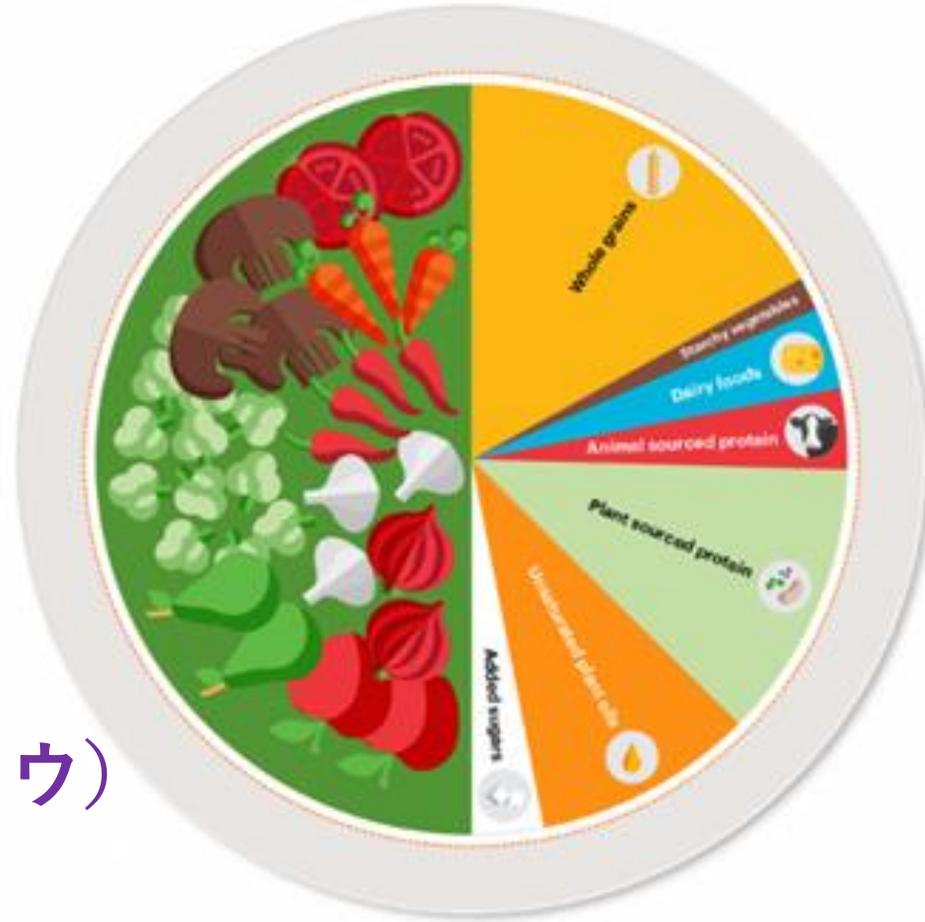


The Planetary Health Plate

仁多米他有機米
(島根、鳥取県)

三瓶牛、大山鶏,ジビエ
(島根、鳥取県)

沿岸漁業、養殖
(鳥取県)



山陰有機野菜
(島根、鳥取県)

山陰果物 (梨、ブドウ)
(鳥取、鳥取県)

プラネタリーヘルス・イニシアティブ
Planetary Health Initiative 鳥取大会2024



プラネタリーヘルスとローカル資本

ネイチャーポジティブ視点にたった医食農連携と観光の可能性

日時：2024年8月3日（土） 13:30～16:30

会場：米子淀江文化センター（さなめホール）

主催：公益財団法人日本ヘルスケア協会・プラネタリーヘルスイニシアティブ

申込：参加費1,000円

山陰の価値を再発掘、世界最先端のプラネタリーヘルス

SDGs が年限を迎える2030年を超えても、私たちが実現すべき目標として国際的に注目される

「**プラネタリーヘルス（人と地球の健康）**」。

環境省、農林水産省、経済産業省、国土交通省が連盟にて発表した「**ネイチャーポジティブ経済移行戦略**」を踏まえて、あらゆる経済活動から**自然の再生と共生**を目指すことが求められています。

山陰ローカルに眠る**自然資本**や**文化資本**、**精神資本**など新たな資本の可能性を見出し、**医食農連携と観光の再定義**をテーマに、**30by30**、**みどりの食料システム戦略**、**高付加価値なインバウンド観光地づくり**などを踏まえながら、多角的な視点でディスカッションを行います。

山陰の歴史文化、気候風土を踏まえながら、先人の智慧と最新の科学技術を融合させ、この土地ならではの「**プラネタリーヘルス**」とは何かを捉え、分野を越境したアクションにつなげていくためのキックオフとなるイベントです。

人類が生きるだけで人と地球が健康に、幸せになる時代へ。

今、この時代だからこそ、山陰の価値を再発掘し、**世界最先端のプラネタリーヘルス実装エリア**として世界に発信していきます。

第1部：基調講演 「プラネタリーヘルスと世界における山陰の役割

～日本的視座が世界最先端となる自然共生社会～

(公財)日本ヘルスケア協会内プラネタリーヘルス・イニシアティブ 代表 桐村里紗

第2部：パネルディスカッション

「ネイチャーポジティブ視点にたった医食農連携と観光の可能性」

第1部

13:30～ 開会

13:40～ (50分)



●基調講演：プラネタリーヘルスと世界における山陰の役割
～日本の視座が世界最先端となる自然共生社会～

講師：桐村里紗（公財日本ヘルスケア協会内PHI代表）

tenrai株式会社 代表取締役医師。東京大学大学院工学系研究科携講座共同研究員。予防医療から生活習慣病、在宅診療まで総合的に臨床医療に従事後、人を含む地球全体の健康・ウェルビーイングを目指す「プラネタリーヘルス」を推進。鳥取県江府町を核とした流域において、分野横断的な連携によるプラネタリーヘルス地域モデル社会実装を行う。著書に『腸と森の「土」を育てる 微生物が健康にする人と環境』（光文社新書）他。

第2部

14:40～ (110分)

●パネルディスカッション

ネイチャーポジティブ視点にたった医食農連携と観光の可能性

パネルディスカッションでは、地球環境と人の営みに関する碩学、佐藤洋一郎さんのファシリテートのもと、観光庁が推進する高付加価値インバウンド向け観光地づくりを推進してこられた星明彦さん、地域に密着したサッカーを通して地域活性化を牽引されている塚野真樹さん、微生物の多様性から土壌・農地の豊かさを評価する第一人者である横山和成さん、鳥取大学医学部ご出身で食事療法や腸内細菌を通した全人的治療を提供する医師の田中善さんをパネリストに迎え、ネイチャーポジティブ視点に立ちながら、山陰のローカル資本をふまえた医食農連携と観光・ツーリズムの可能性を通じて、プラネタリーヘルスの社会実装の具体策についてディスカッションし、アクションにつなげていきます。



<ファシリテーター>

京都府立大学客員教授/ふじのくに地球環境史ミュージアム 館長

佐藤 洋一郎

<パネリスト> (五十音順、予定)

- ・桐村里紗 (PHI代表)
- ・田中 善 (医療法人仁善会田中クリニック院長/鳥取大学医学部出身)
- ・塚野真樹 (株式会社SC鳥取/ガイナレ鳥取 代表取締役社長)
- ・星 明彦 (一般社団法人Expe)
- ・横山和成 (立正大学 地球環境科学部環境システム学科 客員研究員
株式会社DGCテクノロジーシニアリサーチャー)



田中 善



塚野真樹



星 明彦



横山和成